

1. 実証課題名 新規導入作物の栽培方法と水利用効果実証

2. 目的 『有機農産物の日本農林規格』に準ずる栽培方法の確立 明日葉の水利用効果確認

3. 実証実績 ①栽培実績 前作物名(さつまいも) 実証作物名(明日葉)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
作付体系	○ △		×	×	×		×	×	×			○
水利用(回数等)	2回	2回	2回	8回	2回	1回	2回	3回	1回			
作業内容	定植		収穫	収穫	収穫		収穫	収穫	収穫			

(凡例；○播種，△定植，○トンネル被覆，×収穫)



4. 収量調査 (調査年月日 平成16年12月9日)

区分	収量 (kg)				単価 (円)	生産額 (円)	経営費 (円)	所得 (円)
	A品	B品	外	合計				
実証区	5,772				105	606,060	204,155	401,905
対照区	4,096				105	430,080	183,755	246,325
比率	141%					141%	111%	163%

5. 結果と考察

新規導入品目『明日葉』の栽培方法と水利用効果の実証を計画し、かん水チューブによるかん水効果の比較試験を実施した。

栽培方法としては、寒冷紗による遮光が収穫量に影響すること、pFメータ値を参考にした定期的なかん水とクエン酸資材の施用で増収につながる実証できた。

また、『有機農産物の日本農林規格』に準ずる栽培方法の確立では、線虫抑制作物を栽培後の定植で、防虫ネットの被覆と天敵殺虫剤の放飼により、化学農薬を使用しない害虫防除が可能であることの成果が得られた。



▲明日葉栽培の様子

明日葉の自生地八丈島の年間降水量は、3,126.9 mm、日照時間は1,505.7時間で、当地域と比較して、降水量は836.9 mm多く、日照時間は306.8時間少ないことより、明日葉の生育には、少ない日射量と降雨が影響しているものと推察できる。

今後の明日葉生産振興上からも、かん水施設は不可欠なことから、水利用作物としての位置づけと、栽培・病害虫防除暦の作成が必要である。

平成18年産明日葉栽培の申し込みを受け付けています。問い合わせは下記へご連絡ください。

【問い合わせ先】

大崎町役場 農林振興課 特産係
TEL 76 - 1111 (内線 151)



▲明日葉の収穫・調整作業